



アストンマーティン THOR チーム、Valkyrie の走行テストを シルバーストン・グランプリサーキットで実施

- アストンマーティンのハイパーカー、Valkyrie の開発車両が、シルバーストンのグランプリサーキットで初走行
- アストンマーティン THOR が Valkyrie Hypercar プログラムの今後の方向性を検討する中、さまざまな技術的進化を評価
- アストンマーティンのワークスドライバー、ロス・ガンとハリー・ティンクネルが Valkyrie の走行を担当
- 2027 年の FIA 世界耐久選手権のシルバーストン復帰を前に、精力的な走行テストで重要なデータを収集



2026 年 8 月 20 日、シルバーストン（英国）：

アストンマーティンの驚異的なパフォーマンスを誇るハイパーカーValkyrie の総合テストを、シルバーストンにある世界的に有名なグランプリサーキットで終了しました。シルバーストンには、アストンマーティンのモータースポーツの本拠地である AMR テクノロジー・キャンパスがあり、2027 年 FIA 世界耐久選手権（WEC）の英国戦、シルバーストン 6 時間レース（2027 年 4 月 23 日～25 日）の開催地でもあります。

8月19日、全長3.66マイルのグランプリサーキットで、英国のラグジュアリー・ハイパフォーマンス・ブランドであるアストンマーティンのワークスチームであり、アストンマーティンのWECハイパーカープログラムおよび米国を中心に開催されるIMSA ウェザーテック・スポーツカー選手権（IMSA）のGTPプログラムを統括するTHORが、6.5リッターV12エンジン搭載のハイパーカーValkyrieの開発車両の走行テストを実施しました。走行を担当したのはファクトリードライバーのロス・ガン（英国）とハリー・ティンクネル（英国）です。

アストンマーティン THOR は、唯一無二で先駆的なハイパーカーValkyrieの今後のパフォーマンスの方向性を検証すべく、この日の走行を通じて開発中の幅広い技術項目を評価し、貴重なデータを収集しました。

アストンマーティン THOR チーム代表のイアン・ジェームズは次のように述べています。「今日はValkyrieにとって、非常に重要な一日でした。今日試した開発項目の中には、Valkyrieの今後の技術的方向性を検討するうえでの材料になるものもあります。車両のパフォーマンスについて多くの領域を評価することができ、シルバーストンではさまざまなアイデアを検証する場として興味深いことが分かりました。まだ先はありますが、Valkyrieの次なる展開に期待を抱くに十分な理由が得られたと思います」

Valkyrieは、2026年シーズンを通して、WECとIMSAの両方で既に大幅なパフォーマンス向上を示してきました。アストンマーティン初の「ル・マン・ハイパーカー」（LMH）であり、WECとIMSAのトップカテゴリーで唯一、公道仕様のハイパーカーをベースとする英国生まれのValkyrieは、先月のWECサンパウロ6時間レースで6位と9位に入り、初の2台そろってのポイント獲得を果たしました。一方、IMSAでは、ガンとチームメイトのロマン・デ・アンジェリス（カナダ）がコース上では2位でフィニッシュしたものの最終結果は5位となりました。これによりValkyrieは北米最高峰の耐久シリーズであるIMSAで7戦中6度目のトップ10入りを果たしました。

アストンマーティンの耐久モータースポーツ責任者、アダム・カーターは次のように述べています。「参戦開始からの2シーズンにおけるValkyrieのパフォーマンス特性には満足しています。繰り返し申し上げてきたように、私たちが参戦したのは非常に手強いライバルがひしめく高いレベルの舞台であり、彼らは開発の面でも私たちより数年先を進んでいます」

「18か月にわたるレース参戦を経て、マシンの特性への理解が格段に深まった今、私たちはベース車両の開発によって更なる性能向上を引き出せる新たな領域を探り始めています。この取り組みはまだ始まったばかりですが、今回のテストはその開発プロセスにおける有益かつ示唆に富む第一歩となりました」

今回のテストでは、2027年にWECが「ブリティッシュ・モータースポーツの故郷」シルバーストンに復帰するのを前に、ミシュランタイヤとサーキット特性に関する貴重な知見を得ることもできました。次期シーズンは、2019年以来の英国ラウンドの開催となります。

カーターは次のように述べています。「シルバーストンがカレンダーに戻ってくことを心から歓迎しています。ここはアストンマーティンとブリティッシュ・モータースポーツの本拠地であるだけでなく、世界でも指折りのファンの皆様に、アストンマーティン **Valkyrie** のハイパーカーならではの、本能に訴えかける鮮烈な歓びを体験していただく絶好の機会でもあります。英国の地で **Valkyrie** が最高峰の舞台を戦う姿を長らく待ち望んできたファンの皆様には、存分に楽しんでいただきたいと思います。その体験に貢献できるよう、私たちも全力を尽くします」

現行のレース仕様 **Valkyrie** は、アストンマーティンと **THOR** が市販車をベースに開発したもので、レース用に最適化されたカーボンファイバー製シャシーに、改良型 **6.5** リッター**V12** エンジンを組み合わせています。このエンジンは標準仕様では最高回転数 **11,000 rpm**、最大出力 **1,000 PS** 超ですが、ハイパーカーのレギュレーションに従い、出力は厳密に **500 kW (680 PS)** に抑えられます。こちらのプレスリリースに関する素材は、下記よりダウンロード可能です。

<https://we.tl/t-ZyK8z0Y5SV9ZSyia>

アストンマーティン・ラゴンダについて

アストンマーティンは、世界でもっとも熱望されるウルトラ・ラグジュアリー・ブリティッシュ・ブランドとなることを目指し、人々を魅了してやまないハイパフォーマンス・カーを作っています。

ライオネル・マーティンとロバート・バンフォードによって1913年に設立されたアストンマーティンは、スタイル、ラグジュアリー、パフォーマンス、エクスクルーシブネスを象徴するグローバル・ブランドとして知られています。アストンマーティンは、最先端のテクノロジー、卓越したクラフトマンシップ、美しいスタイルを融合させ、**Vantage**、**DB12**、**Vanquish**、**DBX**に加え、同社初のミッドエンジン・ハイブリッド・カーである**Valhalla**など、高い評価を得ている一連のラグジュアリー・モデルを生み出しています。また、**Racing. Green.**サステナビリティ戦略に沿って、アストンマーティンは「ブレンドドライブレインアプローチ」による内燃エンジンの代替システムの開発にも取り組んでおり、電気自動車のスポーツカーとSUVのラインナップを持つというプランを描いています。

英国のゲイドンを拠点とするアストンマーティン・ラゴンダは、ラグジュアリー・カーを設計、製造、輸出し、世界で50以上もの国で販売しています。スポーツカー・ラインナップはゲイドンで製造されており、ラグジュアリーSUVの**DBX**は、ウェールズのセント・アサンで製造されています。

ラゴンダは1899年に設立され、1947年にアストンマーティンとともに故デビッド・ブラウン卿に買収され、現在は「**Aston Martin Lagonda Global Holdings plc**」としてロンドン証券取引所に上場しています。

2020年には、ローレンス・ストロールが同社のエグゼクティブ・チェアマンに就任し、未来の重要な分野に対して新たな投資を行うと同時に、アストンマーティン・アラムコ・フォーミュラ1®チームとともにモータースポーツの頂点へと復帰し、英国を象徴するブランドとして新たな時代へと乗り出しています。



<https://media.astonmartin.com/>

株式会社ブレインズ・カンパニー

加藤 七瀬：070-7611-6970 中井 美里：070-2238-5865

astonmartin-pr@pjbc.co.jp